

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172500205
法人名	株式会社 セイヨウトレーディング
事業所名	グループホーム ナンウェーブ
訪問調査日	平成 20 年 7 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 4 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2172500205
法人名	(株)セイヨウトレーディング
事業所名	グループホーム ナンウェーブ
所在地	岐阜県安八郡輪之内町南波150番地の1 (電話) 0584 - 68 - 2775

評価機関名	NPO法人 旅人となつたよの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年7月8日	評価確定日	平成20年8月4日

【情報提供票より】(20年5月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	27 人	常勤	8 人, 非常勤 19 人, 常勤換算 15.8

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建て	1階	~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	5,730 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1250 円	

(4) 利用者の概要(5月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	60 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	船戸内科外科クリニック・おたり歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな田園地帯にある。近くに小学校、保育園、お寺があり日常的に散歩に出かけたり、子供たちと行き来し交流する機会を持っている。在宅医療や終末期医療に理解のある協力医の連携と看護師を手厚く配置し家でもない、病院でもない、第3の家庭をめざし家族の思いを十分に受け入れ、家族、医師、職員が何度も話し合う場を持ち穏やかに終末期を迎えられるよう努めている。ハートモニターなど医療器具も備え介護職員も勉強会を積み重ね、全職員が終末期を受け入れるホームの方針に取り組んでいる。終末期を受け入れられるホームとして地域から期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型を踏まえた理念を職員と共につくりあげている。運営推進会議を活用して地域や行政から理解を得ることが出来、ホームの地域での役割や、関係づくりを積極的に行っている。緊急時や災害時に必要な利用者の個人情報カードをまとめた整備している。
重点項目	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、自己評価をすることを自分自身を振り返り見直す良い機会と捉え、それぞれの立場で意見を出し合い、前向きに取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では利用者やホームの様子を報告し、困った事例の相談や意見交換が行われ、家族からの要望や意見も出てサービスの向上に繋げている。また会議を通してホームの理解を得ることが出来、地域におけるホームの役割が浸透しつつある。運営者、管理者は、運営推進会議が地域密着に役立っていると感じている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月発行されるホーム便り、訪問時、電話などでホームの様子や個々の様子を報告している。訪問時に担当職員が不在でも居室にある連絡ノートで利用者の日々の暮らしぶりを知らせることが出来、家族からの意見や要望なども書き込まれサービスに繋げている。運営者は、運営推進会議で家族の要望である、家族会や家族同士の触れ合う場の設置を検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を通して区長、民生委員、自治会の方とかかわりが出来、地域行事の運動会などに参加したり、地域のボランティアを受け入れるなど交流する機会がある。また避難場所であるお寺への散歩、近所の喫茶店へ出かけるなど顔なじみの関係が出来、挨拶をしたり、野菜や果物を頂くなど地域の方との交流の輪が広がっている。またホームで行うお花教室に地域の人も参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に自立の手助けをします。」という言葉を加え、住み慣れた地域で継続した生活を支えていく支援として、事業所の理念を職員と共に見直しつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、ケア会議等で理念を振り返ったり確認することで共有している。玄関先や壁面に掲示し常に目に止め、理念を身近に感じ日々のケアに活かしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。また子供110番の役を果たすなど保育園、小学校とも行き来している。散歩に出かけて地域の方から野菜や果物を頂いたり挨拶することで顔なじみになり地域の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価を自分自身を振り返る良い機会と捉えている。また外部評価には、外部からの視点での気づきを新鮮な気持ちで受け止め、職員間で話し合い工夫しながら改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催しホームの実状、外部評価の報告、困った事例の相談などしている。運営者、管理者は、相談する機会とホームの理解を得るために会議が役立っていると感じている。毎回職員以外の参加者が多いが、利用者が参加出来るような働きかけがない。		利用者にも積極的に参加してもらえるように働きかけ、更なる有意義な会になることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口空き部屋状況や実状報告、相談に行くなど、市町村との関係作りに積極的に取り組んでいる。また市町村担当者の訪問もあり担当者が変わっても困ることのない関係を継続している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行するホーム便りで行事案内や様子を知らせ、訪問時にも個々の暮らしぶりや健康状態の報告をしている。また居室に個別の連絡ノートがあり、金銭管理の報告や写真を貼って日々の暮らしぶりを伝えている。家族からの意見など書き込むことも出来る。海外にいる家族のためにメールで利用者の様子を知らせることもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が出席し意見を述べる機会を設けている。また居室の連絡ノートや訪問時にも声かけをするなど家族が意見や苦情を言い易いように工夫している。家族から行事のお手伝いやボランティアの希望もあり家族会を作ってほしいと依頼を受け、運営者は、管理者、職員と検討中である。		家族の要望である家族会等検討し、家族からの意見が運営に活かされることを期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	半年から1年の間隔で担当者の交替を行っているが、レクリエーションや食事などでユニット間の交流を活用しながら、利用者、家族の意向を聞き了解を得て利用者にダメージを与えないよう配慮した交替方法がとられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、資格を取るために勉強することに意義があると考え、段階に応じて育成するよう継続研修を年に2回受けるようにしている。研修費用は、法人が負担し勤務時間に受講している。また協力医療機関と合同で行う研修などにも積極的に参加し、終末期の取り組みに活かそうとしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、介護支援専門員は、グループホーム協議会や介護支援専門員協議会などに出席し交流する機会をもっている。記録簿、資料など参考にして見直すなど情報を活用している。また職員も、個別に施設の見学をするなど交流する機会を持ちサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族がホームを見学に来たり、介護支援専門員が自宅を訪問して利用希望者の生活の様子や背景を何度も伺うなどしてサービスの開始には、本人、家族の納得が得られるよう工夫している。また事業所の多機能を活用して短期入所利用から開始したこともある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、人生の大先輩である利用者から箸やコップの持ち方、服装、言葉づかい、食材の扱いや料理方法、軍歌からその時代など教えてもらうことが日常生活に多く、共に過ごすことから学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で声をかけ、利用者の思いや希望を聞きだし、言葉や表情、様子からも把握している。訴えが困難な利用者には、目の動きや声、顔の表情、体の動きなどから把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎週行われるケア会議で職員の気づきや意見が出され、本人、家族の希望や要望を取り入れた個別の介護計画が作成されている。また本人のことをよく知る地域の方からの意見を取り入れた介護計画も作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しと、状態の変化にはその都度対応している。また毎日チェックする介護計画の評価と毎週行うケア会議で見直しの検討し、現状に即した介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期共同生活介護の指定を受け空き部屋があれば、短期入所の受け入れを行っている。墓参りや病院の送迎、孫の結婚式に出席するために職員が付き添うなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携があり、往診結果をふれあい手帳に医師が記入し利用者一人ひとりにおいて報告が行われている。また本人や家族の希望があれば利用前からのかかりつけ医に受診することも出来る。適切な医療と納得の得られる支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者、管理者、職員は、終末期を受け入れる方針で協力医の連携、看護師の配置など体制も整え話し合いもしている。本人、家族からは、利用前に意思の確認をしている。医師、家族、職員が話し合う機会を持ちながら全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応など馴れ合いにならないよう毎月目標をたて反省する機会を設け利用者の尊厳を重視したケアに努めている。また個人情報の取り扱いには、勉強会やケア会議で振り返るなどして職員間で話し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊や早起きの人、食事がゆっくりや速い人、一人ひとりのペースを大切に支援をしている。喫茶店や散歩に行きたい人には、職員間で工夫し希望に添える範囲で柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護食を学んだ職員を中心に調理し、利用者の力を活かしながら、お茶を配ったり、配膳や下膳の手伝いを一緒に行っている。誕生日には、利用者の好みの献立が用意される。食事介助の必要な利用者が多いことから一緒に食事を楽しむことが難しい。		食事介助の必要な利用者が多いが、利用者と同じものを食べることが出来るよう、一緒に食事を楽しめる工夫を職員と検討されることに期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個室とストレッチャー浴があり、入浴介助の必要な利用者が多いため身体状況に合わせた入浴支援をしている。希望があれば毎日でも入浴できる。時間も希望に応じるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手摺り拭き、野菜の収穫、浴衣たたみ、囲碁、ちぎり絵、フラワーアレンジメントなど一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとの支援をしている。また寝たきりの利用者にも、音楽療法を居室で行い、利用者が体でリズムをとったり顔の表情に変化が見られるなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店へ行く散歩は、希望者が多く頻繁に出かけ、避難場所の確認も合わせてお寺への散歩も日常的に行っている。また重度の利用者には、ストレッチャーのまま散歩に出て地域の方と挨拶したり、季節感を感じ取れるよう戸外に出かける支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵はかけないケアをしている。利用者が、玄関に座っていたりそわそわしている時は、職員が付き添いその都度対応している。利用者を見かけた時の見守りを区長に相談して地域の協力も得られようお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、利用者と共にい避難場所も日々の散歩で確認している。常備品の中に利用者の連絡先や病状、服薬説明など必要事項をまとめたカードを避難時に利用者に身につけられるように作成した。運営推進会議で地域の方の協力も依頼し、市町村と共に地域の施設と三者協定を結ぶことを検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別のフローシートで摂取量、水分量の把握をしている。栄養のバランスや糖尿食、腎臓食などの特別食は、協力医療機関の栄養士や施設メニュー担当職員が専門的にチェックしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂には季節の飾り物を置き生活感や季節を感じる工夫がある。共有の空間は、不快な音も臭いもなく明るい日差しが入るが、夏はエアコンをつけても日中暑いため屋根に水をまく設備を設置することを検討している。		利用者と職員も夏を快適に過ごせるよう暑さ対策が実現することを期待する。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や調度品、仏壇、化粧品道具、家族の写真など、利用者の使い慣れたものや好みのものを活かした様々な居室になっているが、ポータブルトイレにプライバシーの配慮がない居室もある。		ポータブルトイレを居室に置くことについてプライバシーを大切に安心して過ごせるよう、利用者、家族、職員と話し合い工夫することを期待する。